

グローバル・スタートアップ・キャンパス構想 (コンセプト)

ミッション

世界最高水準のイノベーション・エコシステムのハブを構築する。

主要活動内容

I ディープテック分野の研究開発

- ◆ 社会的インパクトの大きいディープテック分野を重点。
- ◆ 研究の初期段階からマーケットフィードバックを重視。
- ◆ 充実した研究環境の提供。

II インキュベーション・アクセラレーション

- ◆ 事業化支援 (BD) ・知財支援 (IP)
- ◆ 海外VCやスタートアップ支援機関を招致。
- ◆ 国内外の大学・研究機関、企業、スタートアップ等に有償でスペースを提供。

III 人材育成

- ◆ 起業家精神のある研究者、VC、BD・IP人材を育成するためのフェローシップ事業を実施。
- ◆ 運営法人に幅広い人材を受け入れ、イノベーションを生み出すグローバルな経営を学ぶ場を提供。

IV その他

- ◆ 国内外のネットワーク形成に向け、各種イベント等を開催。
- ◆ 海外研究者等への滞在・ビジネス環境支援。
- ◆ 先端技術に関する内外の研究開発動向の調査研究。

運営法人の組織形態・事業展開

(組織形態)

- ◆ 国が役員人事・予算等の運営に一定の関与を行う民間主体とする。
- ◆ 研究開発からスタートアップ、国際事業展開まで一貫通貫で取り組む。

(事業展開)

- ◆ 国内外の企業・非営利法人、投資家・篤志家による資金、政府の競争的研究費等も含めた多様な財源による自立的・持続的な運営 (自走) 。

土地・建物

- ◆ 土地は、東京都目黒区・渋谷区に跨る国有地を活用。運営法人が当該国有地を現物出資等により使用することを基本。
- ◆ 建物は、世界のトップ人材を魅了するものを建設する。
- ◆ 設計・建設に当たっては、世界の研究・インキュベーション施設の運営経験と知見を組み込み、民間ノウハウや資金を最大限活用することを基本。

先行的な取組

- ◆ ① 先行研究事業の実施：施設の開所・運営法人の設立に先立ち、世界から優れた人材・投資を集める呼び水となる最先端の研究活動を実施。
- ◆ ② フェローシップ事業の実施：グローバル・ネットワークの構築に向け、フェローシップ事業についても先行的に実施。

【概要】グローバル・スタートアップ・キャンパス（GSC）ワークショップ

開催日時： 令和6年11月11日（月） 10時00分～11時30分

参加者数： 対面（招待制）：51人 オンライン：約600名

内 容： ロバート・ランガー マサチューセッツ工科大学（MIT）教授
伊藤 穰一 GSC構想推進室エグゼクティブ・アドバイザー
（千葉工業大学 学長） による対談
○城内科学技術政策担当大臣より開会ご挨拶
○フェルシング在日米国大使館経済・科学担当公使ご挨拶

テ ー マ： Scientific entrepreneur, translation, university, startup

概 要： MITのロバート・ランガー教授より、また、グローバル・スタートアップ・キャンパス（GSC）構想の取り組みや、MITのロバート・ランガー教授がGSC構想に期待することについてディスカッション

【ロバート・ランガー氏】

- VCなしで起業できるのであればそうすべきだが、特にバイオテクノロジーでは相当なリソース（資金）が必要である。また、VCは商業的な才能を見つけることにも長けている傾向がある。
- 特許は重要。自らの特許について大学のTLOの力も借りて選別している。大学のTLOは、ある時点で法的な専門家集団からビジネスの専門家を採用するように変化があった。

【伊藤穰一氏】

- 米国の主な成功要因はエコシステムと人材。日本のエコシステムにおける欠陥は知的財産を実用化する能力にあり、研究を収益化する能力を持つ経験豊富な商業能力が不足しているのではないか。
- もっと実験（挑戦）し、もっと失敗すること、競争を生み出すこと（日本的な調和を求める姿勢は長所でもあり短所でもある）が必要。

Robert S. Langer(ロバート・ランガー)

マサチューセッツ工科大学(MIT)化学工学科・生物工学科 教授



ロバート・ランガー教授は、MIT教授職の最高位であるMIT Institute Professor 9人のうちの1人。1600以上の論文を発表し、1400件以上の国際特許を取得または出願している。MITランガー研究室は、年間1000万～2000万ドルの研究資金と100人以上の研究者を抱える世界最大のバイオエンジニアリング研究室である。また、バイオテクノロジーベンチャー企業モデルナの共同創業者としても知られる起業家である。

GSCフェローシッププログラム

【目的・概要】 拠点開所前の先行的な取組として、海外の公益法人や大学、VC等と連携し、

①**研究者（派遣・受け入れ）**：スタートアップ等を生み出す海外のラボに日本の研究者を派遣し、研究だけではなく社会実装のスキームを理解する研究者を育成。また、海外の優秀な研究者を日本の先駆的なラボに受け入れ、GSCネットワークを形成。

②**ビジネス人材（派遣のみ）**：ディープテックの事業化に強い海外のVC、研究機関等に派遣し、グローバルな知財化・事業化等のノウハウを学ぶとともに、米国のネットワークに接続できるビジネス人材を育成。

※ 海外の優秀なビジネス人材を日本のVCやスタートアップ等に受け入れる事業については現在交渉中。

【対象・人数】 ①若手研究者（ポスドク等） ②VC、事業化支援人材、知財支援人材を目指すビジネス人材

※ 派遣・受入ともに5-8名程度から開始。

【分野】 研究者派遣はバイオから開始。ビジネス人材派遣はディープテック全般。

【予算】 2024年度：2億円3,000万円（内閣府）

（内訳）：フェローシップの生活費・報酬等として約1千万円/人/年ほか、実施事業者の人的費やネットワーク経費等

※ 研究者の派遣・受け入れは、日米双方で費用負担（日本側は内閣府。米側はチャン・ザッカーバーグ財団。）



派遣候補大学等

(Stanford, Berkeley, UCSF, Columbia, University of Chicago, Harvard, Yale, CZ Biohub...)

派遣候補VC

(Fundomo, 8VC, Lowercarbon Capital, Flagship Pioneering, Lux Capital, Luma Group, The Engine, a16z, Activate, VentureWell..)

※当面は米国を予定しているが、順次、**欧州・東南アジア（ICL・NUS等）**にも拡大を検討。

GSCフェローシッププログラム（参考）

日本側実施事業者：

①研究者フェローシップ ステラ財団



- ・ 武部貴則教授が創設した研究者支援を目的とした一般社団法人

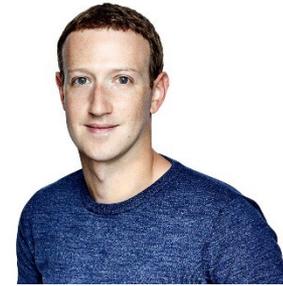
②ビジネス人材フェローシップ 東大IPC



- ・ 東京大学の100%出資による子会社
- ・ VC投資、起業家人材育成等を実施

米国側資金提供及び実施事業者

：チャン・ザッカーバーグ（CZI）財団



- ・ マーク・ザッカーバーグ夫妻による非営利財団
- ・ 「病気の撲滅」をミッションとして、バイオ分野の研究支援を実施
- ・ スタンフォード、ハーバード、コロンビア大学、シカゴ大学等、米国トップの約10大学とコンソーシアムを形成。

<スケジュール>

FY	R6				R7				R8			
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4
研究者		準備・公募			派遣・受入実施							
BD人材		準備		R7.1～ 派遣・受入実施								